

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463231

研究課題名(和文) 我が国の国際保健・看護コンピテンシー教育に関する調査研究

研究課題名(英文) Exploration of Global Health Competencies in Japanese Nursing Education

研究代表者

今村 恵美子 (Imamura, Emiko)

千葉大学・大学院看護学研究科・講師

研究者番号：50571337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本調査研究の目的は、我が国の基礎教育課程の看護学生に必要とされるグローバルヘルス・コンピテンシー(以下GHC)に関する看護教員の意識や展望、自施設での教育の現状と課題を明らかにすることである。有効回答数は331(73.9%) (看護系大学教員130名・看護専門学校教員201名)。多重比較(有意水準 $p < 0.05$ 、両側)の結果、調査票30項目中15について大学教員が専門学校教員に比して有意に賛成を示した。回答者の意見より、教授時間や専門教員の不足、必須項目再検討の必要性等GHC教育推進上の課題が明らかされた。今後米国等の看護教員と共に各国の文化特性に即したGHC教育指針を開発する予定である。

研究成果の概要(英文)：The aim of this first ever Japanese research was to identify perceptions of nursing academics in Japan on global health competencies (GHCs), developed by Wilson et al. in 2012, if essential or relevant for education of their nursing students. A Japanese translated questionnaire (a 4-point Likert scale: 1 = Strongly Disagree to 4 = Strongly Agree) and statistical analyses of responses from 331 academics determined any consensus of favorable opinions with respect to standard GHCs of Wilson et al. ANOVA pairwise analyses indicated more favorable agreement between faculty members at universities than instructors at vocational schools for 15 of 30 GHCs ( $p < 0.05$ ). Although Japanese academics are less likely to agree with their global peers about essential GHCs for nursing education, they suggested selection of specific GHCs relevant for Japanese nursing students besides Wilson's GHCs. International collaboration is required to establish standard GHC guidelines for global nursing education.

研究分野：スピリチュアル・ケア看護学 国際看護学 老年看護学 公衆衛生看護学

キーワード：グローバルヘルス・コンピテンシー 日米比較 看護学生 教育指針

## 1. 研究開始当初の背景

世界的な人口の流出入が加速される近年、我が国では様々な社会的・文化的背景をもつ人々が国境を越え日常的に往来・移住している。総務省統計局の国勢調査<sup>1)</sup>によると、全人口に外国人が占める割合は、1995年0.5%から2015年1.4%へと過去20年間で約3倍に増加している。人々のケアに預かる看護師は、自身の文化にとどまらず、異文化に対する幅広い知識と深い理解を養い、個々人の文化特性と健康ニーズに根差した看護を提供できる能力、即ちグローバルヘルス・コンピテンシー(以下GHC)を身につける必要がある。そのような能力を基礎教育の段階から看護職者の素養として育成することは、2005年厚生労働省が提示した『看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン』(「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」項目67「国際的視点から医療・看護の役割を理解する」)にも示されるように、今日の我が国の看護教育に求められている。

『グローバルヘルス』とは「世界中のすべての人々の健康を向上し、健康の公平性を達成することを優先する研究、学術調査および実践の領域」と定義され、かつ「国境を超えた医療問題、決定要因と解決を重視し、健康科学内外の多くの学術領域を含み、多分野間の連携を促進するものであり、集団ベースの予防と個人レベルの臨床ケアの統合である」と説明されている<sup>2)</sup>。アメリカではこの定義に基づき、2009年看護学部生のGHCに関する全国調査が実施されGHC教育の課題が明らかにされた<sup>3)</sup>。日本ではしかし、このような全国規模の調査はこれまで実施されていない。今後我が国でGHC教育を推進していくためには、GHC教育の現状や今後取り組むべき課題等について明らかにすることが必須である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、国内の看護系大学・短期大学および看護専門学校の看護教員に対し

看護基礎教育課程の学生に必要とされるグローバルヘルス・コンピテンシー教育に関する意識や展望、自施設での教育の実態等について調査することにより、我が国の国際看護教育の現状と課題を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究デザイン

探索的・記述的横断調査

### (2) 調査実施期間

平成27年7月～28年8月および平成29年1～3月

### (3) 対象者

日本看護系大学協議会に登録している看護系大学・短期大学(以下「大学」。27年6月1日現在248校)の看護学部長および学科長(以下「学部長」)248名と看護専門学校(以下「専門学校」。28年10月末現在719校、厚生労働省統計)の校長(看護教育責任者)719名、および学部長・校長以外の看護教員(国際看護関連教育科目の担当および担当以外の両者を含む)

### (4) サンプルング

大学は日本看護系大学協議会の名簿より、専門学校は厚生労働省統計『看護師学校養成所一覧』名簿より施設の名称・住所を把握し、学部長および校長宛てに本調査の説明を掲載した協力依頼書を送付した。また学部長・校長以外の看護教員は研究者の知人をリクルートし、さらにその知人からの紹介にて協力者を募り、便宜的およびスノーボールサンプリングを並行した。

### (5) 調査票

本調査では、アメリカ(北中南米16か国)の先行研究<sup>3)</sup>で使用された英語の調査票を日本語に翻訳して使用した。調査票はGHCに関する30の必須項目(4点リッカート尺度:「4=強く賛成」、「3=賛成」、「2=反対」、「1=強く反対」と自由記述欄で構成される。翻訳と使用に際しては、先ず先行研究代表者Wilson氏および調査票の原本(北米医学生用調査票)作成組織(The Association of

Faculties of Medicine of Canada Resource Group on Global Health and the Global Health Education Consortium) 代表者より文書による許可を得た。英語の調査票を日本語に翻訳した後逆翻訳し、英語調査票原本との意味内容の同一性を確かめ表面的妥当性を確認した。その後7名の看護教員に投入し試験・再試験信頼性(クロンバック  $\alpha$ :0.863、級内相関関係： $\alpha$  = 0.760)および調査票の低位尺度(6分野)における内的整合性( $\alpha$  = 0.726 ~ 0.916)を確認した。

#### (6) 調査票の配信と回収(データ収集)

本調査では開始当初ウェブ・システムによる調査(以下「ウェブ調査」)を実施したが、回収数(返信数)が少なかったため調査票の郵送に変更した。ウェブ調査・郵送とも、本調査の説明を読み同意した場合のみ調査に答え返信・返送するよう対象者に依頼した。

#### (7) データ分析

回答者の属性は記述的に分析し、属性と各項目間の相関関係はSPSS Stat. 22を用い一元配置分散分析およびTukey's HSD検定による多重比較を行った(有意水準  $p < 0.05$ 、両側)。また各項目の平均値をアメリカの先行研究<sup>3)</sup>のそれと比較し我が国の傾向を明らかにした。さらに自由記述で得られた回答者の意見はNVivo.10にて概念別に整理し、量的データ分析の結果を解釈するための質的データとして混合して分析した。

#### (8) 倫理的配慮

本研究調査に際し、千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会より承認を得た(平成27年6月23日、承認番号27-18)。

## 4. 研究成果

### (1) 回答者の属性

回収されたデータ448のうち有効回答数331(73.9%)で、その役職は学部長66名(対象数248名の26.6%)、校長135名(719名の18.8%)、大学の国際看護教育担当教員18名(5.4%)、国際看護教育担当以外の教員46

名(13.9%)、専門学校の国際看護教育担当教員24名(7.3%)、国際看護教育担当以外の教員42名(12.7%)であった。年齢構成は50代183名(55.3%)・60代95名(28.7%)で女性が317名(95.8%)であった。

### (2) 各項目の平均値

先ず調査票の各GHC項目の平均値を算出し、各項目に対する回答者の支持の程度を確認した。その結果、本調査(日本語)では30項目中14項目が「賛成」(3.03~3.49)と回答された一方16項目が3未満(2.56~2.93)と賛成に至らなかった。アメリカの先行研究<sup>3)</sup>ではスペイン語回答で全30項目(3.25~3.76)が、英語回答で27項目(3.02~3.78)が「賛成」とされたが、本調査ではこのような賛成への強い支持は示されなかった。

### (3) 役割と各項目間の相関関係

次に回答者の役職と各項目間の相関関係について多重比較分析した。「II e. 通訳者を介して患者・家族と効果的に意思疎通を行うことができる」( $F[5,333]=3.340, p < 0.01$ )や「VI a. 健康と人権の関係について基本的な理解を示すことができる」( $F[5,333]=4.124, p < 0.001$ )「Vg. 国外の資源の少ない環境での選択科目に参加する学生は、該当選択科目への準備のための研修に参加しその成果を発揮することができる」( $F[5,323]=6.160, p < 0.01$ )等30項目中15項目において有意差が認められ、大学の学部長や教員が専門学校の校長や教員に比して強く「賛成」を示すことが確認された。

### (4) 回答者の意見

さらに自由記載欄に記述された回答者の意見より、GHC教育は「今後益々求められる」「学士課程において重要」「カリキュラムにきちんと位置づけたい」等重視される一方、「現行のカリキュラムでは時間的に難しい」「教授できる教員が不足」等実施が困難である状況が確認された。「時間の不足」は特に専門学校教員より強調された。興味深いこと

に、「時間や教員の不足」はアメリカの先行研究<sup>3)</sup>でも報告されている。また、上記に加え回答者は「海外の大学とは異なり日本では身につけるのが難しいGHC項目が多い」「必須項目を精選していく必要がある」等の見解を示した。

#### (5) 結語

本調査研究の結果、これまで未知であった我が国の看護教員が持つGHC教育への意識や展望、自施設での教育の現状と今後我が国でGHC教育を推進していくための様々な課題が浮き彫りにされ、研究目的を達成することが出来た。本研究の回答者は主として50～60代女性の学部長・校長職の方であったが、今後さらに多様な年齢層等の看護教員の意見も拝聴しGHC教育への示唆を得たい。また、本調査を通じて我が国の看護教員が国際的GHC教育の要素を知り、授業の再認識の一助(FD)となれたことは有意義であったと考える。上記課題の解決を図りGHC教育を推進していくために、今後米国等の看護教員との国際共同研究にて我が国と各国の文化特性を踏まえたGHC看護教育指針を開発する予定である。

#### 【引用文献】

- 1) 総務省統計局: E-Stat. 統計でみる日本.  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>(2017年6月25日検索)
- 2) Koplan, J.P. et al.: Towards a common definition of global health. *The Lancet*, Vol.373, 1993-1995, 2009.
- 3) Wilson, L. et al.: Global health competencies for nurses in the Americas. *Journal of Professional Nursing*, Vol.28, No.4, 213-222, 2012.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計2件)

Imamura E, Yamauchi, T.: Evaluation

of Global Health Competencies of Nursing Education in Japan.

Consortium of Universities for Global Health 2018 Conference, New York, March 16, 2018.

今村恵美子, 山内豊明: 我が国のグローバルヘルス・コンピテンシー看護教育の現状と課題. 第37回日本看護科学学会学術集会, 宮城県仙台市, 2017年12月17日.

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

今村 恵美子 (IMAMURA, Emiko)  
千葉大学・大学院看護学研究科・講師  
研究者番号: 50571337

##### (2) 研究分担者

山内 豊明 (YAMAUCHI, Toyoaki)  
名古屋大学・大学院医学系研究科・教授  
研究者番号: 20301830